

ユニバーサルデザインフード自主規格 第2版へ改訂

「ユニバーサルデザインフード」は、「利用者の選択に資する物性に配慮した加工食品の供給」を基本的な考え方に、協議会が作成した「自主規格」に沿って運営されています。

この自主規格は、平成15（2003）年に「ユニバーサルデザインフード第1版」として出版され、以降、ユニバーサルデザインフードの製品化のためのマニュアルとして会員企業が常に参照してきました。掲載内容は主に「ユニバーサルデザインフードの定義」、「試験方法」、「表示基準」などとなっています。この自主規格の運用が開始されてから今年で8年余りが経ちましたが、当時、今後の我が国の高齢者人口の増加を見据え開発が進められてきた「物性に配慮した食事」の必要性は、「超高齢社会」到来とともに以降一層高まっています。

このような経緯の中、ユニバーサルデザインフードの自主規格として、新たに加えるべき事項の検討が、協議会の運営主体である普及委員会、技術委員会、容器包装研究会でなされ確立されたこと、また、協議会外では国の基準である「特別用途食品」制度が平成21（2009）年に改正されるなど、第1版の出版以来、協議会とユニバーサルデザインフードを取り巻く環境は進化や変化を遂げてきています。

そこで、協議会ではこれらの事項に対応すべく、これまでの「第1版」の内容を見直し、新たに「ユニバーサルデザインフード自主規格第2版」を発行いたしました。第2版の取組内容は以下の通りです。

第1章 ユニバーサルデザインフード製品規格

1. 適用の範囲
2. 定義
3. ユニバーサルデザインフードの区分

4. 衛生
5. 容器包装
6. 表示

第2章 ユニバーサルデザインフード製品試験法

1. 試料
2. 物性の測定方法
3. 栄養成分等の分析方法
4. 微生物試験方法
5. 重金属等の試験方法

第3章 ユニバーサルデザインフード容器包装の品質規格及び設計配慮事項

I. 容器包装の品質規格

1. 金属製容器
2. ガラス製容器
3. 合成樹脂製容器
4. 紙製容器
5. 組合せ容器

II. 容器包装の設計配慮事項

1. 容器包装の設計指針
2. 参考とすべき事項

第4章 ユニバーサルデザインフードの表示に関する自主基準

1. 目的
2. 必要な表示事項
3. その他の表示
4. 開封口識別マーク運用基準
5. 指定ロゴマーク及び用語の運用基準
6. とろみ調整食品のとろみ表現に関する自主基準
7. 不当表示、不当広告の禁止

第5章 とろみ調整食品のとろみ表現に関する自主基準

1. 適用
2. 表示方法
3. 補足

第2版に新たに加えられた主な事項については、まず、第3章「Ⅱ. 容器包装の設計配慮事項」として「開封口識別マーク」があげられます（運用基準については第4章に記載）。次に、第5章「とろみ調整食品のとろみ表現に関する自主基準」です。前者の「開封口識別マーク」についてですが、これは「容器のユニバーサルデザイン性」に配慮する目的で、主にレトルトパウチ商品について、利用者にとって探しにくい開封口を目立つようにアイコン化して表示・案内していくことを推奨しています。次に、「とろみ調整食品のとろみ表現」については、これまでは同一のとろみのつき方として「ヨーグルト状」、「ジャム状」などメーカー各社各様の表現を商品に表示してきましたが、これら表現の統一をもって利用者の不便を解消すべきであることが以前より望まれていました。そこで協議会では、メーカー間、商品間における統一表現の仕組みを検討、これを標準化し運用を開始しました。

さらに、重要な事項として第2章「ユニバーサルデザインフード製品試験法」についても改めました。「第1版」では「厚生労働省 特別用途食品 高齢者用食品の試験方法に準拠」と記載し、同方法をユニバーサルデザインフードの試験法として運用していましたが、平成21（2009）年4月の特別用途食品制度の改正により「高齢者用食品」の許可基準が廃止となったことを受け、ユニバーサルデザインフード独自の製品試験方法を再検討し、新たに自主基準としてここに明記いたしました。なお、改正された「特別用途食品」制度では「嚥下困難者用食品」が新たに定義されましたが、「高齢者」や「そしゃく困難者」のための食品については制度の対象外となったため、実質的にユニバーサルデザインフードがカバーする範囲は広がることとなりました。これは、本協議会の活動の意義が公的に見いだされたことを意味します。

今般の自主規格改訂に見るように、日本介護食品協議会では、食事を用意される方、召し上がる方を問わず、ユニバーサルデザインフードをご利用される多くの方々に、より安心して食事を楽しんでいただけるよう今後も会員企業とともに日々研鑽を重ねていく所存です。また今後多くの食品メーカーにユニバーサルデザインフードにご賛同いただくことで、利用者の利益は当然のことながら、業界が益々発展していくことを切望しています。

【会議、催事等の予定】

- 9月1日(木) 第3回自主規格分科会（缶詰協会会議室）
- 9月9日(金)～10(土) 第58回日本栄養改善学会学術総会（広島国際会議場）
- 9月22日(木) 第2回容器包装研究会（缶詰協会会議室）

【UDF 商品登録状況（644品目・7月末現在）】

	区分1	区分2	区分3	区分4	とろみ調整	合計
乾燥食品	0	0	2	0	54	56
冷凍食品	85	29	274	10	0	398
常温食品	12	27	100	50	1	190
合計	97	56	376	60	55	644

【会員の異動（7月）】

加入（2社）(株)クリニコ、三井食品(株)
計46社（7月末現在）。

◎日本介護食品協議会では会員企業を募集しています。協議会とユニバーサルデザインフードについては事務局までご連絡ください。

事務局：東京都千代田区神田東松下町10-2
翔和神田ビル3階（社）日本缶詰協会内
TEL 03-5256-4801
FAX 03-5256-4805
<http://www.udf.jp/>